



Subaru

男声合唱団 ニュース№616 17. 7. 6

末廣亜矢子声楽教室「君死にたまふ・・・」と 昂強化レッスン・特団レッスン開始！

6月30日/7月2日

□6月30日(金) 18:00~20:30末廣亜矢子声楽レッスンが開催されました。佃さんの体操と千秋さんのヴォイストレーニングのあと、末廣亜矢子先生の3か月ぶりの特別レッスンを「君死にたまふことなかれ」の1曲で、2時間かけてレッスンしました。特に発声の仕方を中心に貴重なアドバイスをうけて、声に出し、「君死にたまふことなかれ」が一層輝く素晴らしい曲に仕上がる予感を抱かせました。ピアニストは西應静さん。参加者は全35名でした。



□7月2日(日)は13:00~15:00昂強化レッスンが行われました。11回コンサートに向けて月1回第1日曜日にレッスンが設定されました。佃さんの体操と千秋さんのヴォイストレーニングのあと、今日は、本並先生の指揮で「フィンランディア」「仕事の歌」を本番のアカペラで声合わせを行い合唱練習しました。休憩・連絡事項の報告を挟んで、伊藤さんの指揮で、「降りつむ」をレッスンしました。

15:00より、「特団員とともに」の合唱練習が始まりました。今日は4名の参加があり、自己紹介がありました。沖縄支援の心を込めて、「沖縄を返せ」「労働者の合唱」「芭蕉布」「さとうきび畑」の4曲を譜面で音程・リズムを確認しながら合唱しました。今後、特団員の参加が増える見込みであり、さらにもうたっていただける方々に勧めていきたいと思います。次回以降の曲作りが楽しみです。ピアノは森二三さん。参加者は全34名でした。



連絡・報告事項

**(1)「守口 9 条の会・平和のつどい」
7月16日(日) 守口中央公民館 5F
ホール**

12:00 集合(13:00 までリハーサル)

13:30 開演・オープニング出演

夏服・9 条バッチ必携、軽い昼食持参または前もって食事をしておくこと。

(楽譜は参照可<黒表紙>だが、できるだけ見ないことが望ましい。)

演奏曲目：歓びのナーダム・ぶどうとかたばみ・林道人夫・千秋ソロ(2 曲)・フィンランディア・このみち・街を返せ・昴・Six pence/(40 分)

(出演後、ねむかホールに戻って15:00より「昴」定例レッスンをを行います。)

当日司会の岡邑さんより、「ぶどうとかたばみ」の「lululululu--」に込められた作者の思い、「林道人夫」の労働と植林森林保護作業の大切さ、そして「街を返せ」の大阪市と同じ面積をもつ被災地・福島県浪江町の大きなこと、それが被爆したことの大変な現実を司会・MC の中で説明したいとの紹介がありました。

(2)南部地域合唱発表会 7月23日(日)天王寺区民センター

集合:9:45、舞台リハーサル:10:00、多目的室リハ:11:10、

本番:15:25 発表曲:「ぶどうとかたばみ」「このみち」

夏服・9 条バッチ。昼食は各自で。

(3)「日中友好コンサート 7月25日(火)クレオ大阪中央

16:00 集合・リハーサル、16:30 開演・オープニング出演(15 分)

演奏曲目:「大海 故郷」「このみち」「仕事の歌」「歓びのナーダム」+「Six pence」

夏服(9 条バッチ):チケット 1,000 円(500 円昴還元)お誘いいただき、売ってください。

(4)昴第 11 回コンサートに向けて

①友人・知人・親戚等あらゆる人々に昴コンサートのチラシとチケットを届けましょう!

コンサート(12月3日(日)まであと5か月、団員のチケット配布(販売)の動きはまだこれからという状況にあります。コンサートは年末のみなさん多忙な時期に開催されます。腰を上げて、友人・知人に宣伝し、チラシとチケットを渡して来場いただくよう声をかけ、連絡してください。自信をもって昴の演奏のすばらしさと大改装の会場の良さをしっかりと宣伝してください!

②特団員を増やしましょう!

沖縄支援の心を込めて、「沖縄を返せ」「労働者の合唱」「芭蕉布」「さとうきび畑」の4曲

レッスン日:7月2日・8月6日・9月3日・10月1日・11月5日・11月19日(6回)

練習場所:ねむかホール 15:00~17:00

現在7名の方から参加申し込みをいただきました。多くの方々にお誘いの声掛けをお願いします。

③舞台衣装を新調します。グリーンシャツ・3,000 円/1 枚

「君死にたまふことなかれ」—口レスンメモ (6月30日レッスン)

○9~16 小節(Uh—Ah—)

(本並) pで入る。11小節~mp、クレシェンドへ、12小節デクレシェンドへ、13小節と14小節の最初の「Uh」fp (フォルテピアノ)で、アタックした音で！、

15小節「Ah—」mpクレシェンド、16小節「Ah—」mfとしっかりとした音を出す。

(末廣)9小節~「Uh—」音量もっと落として！ソロの声がよく聞こえるように！特にソロの音が低くなっているところ(「きみなれば」の「な」)は「Uh—」抑えて出さないと聞こえない。1:40だということを考えて、一人一人が抑え気味にして、しっかり出して欲しい。

○13~17 小節(ソロ)「おやはやいばをにぎらせて ひとをころせとおしえしや ひとをころして死ねよとて にじゅうしまでを そだてしや」

④はソロの聞かせどころ。この曲の曲想は1小節づつやわらかくではなく、1小節づつ押していかないと！1・2・3・4拍とある2・3・4拍目の詞をもっと強く表現して！「やいばを にぎらせて」「ころせと おしえしや」「ころして しねよ」「にじゅうしまで」「そだてしや」

③20~37 小節

「さかいのまちの あきびとの きゅうかをほこる あるじにて ~」: BS・BRの聴かせどころ！

「さかいのまちのあきびとの~」:ことばをはずませないで、淡々と歌う。「さかい」「まち」「あきびと」「あるじ」それぞれのことばの一言一言がはっきりと聞きとれるように！何を言っているのか分からないのでは困る。

「旧家を誇るあるじにて—」:クレッシェンドしていく、ことばははっきりと！

26小節「きみ死にたもうことなかれ」:クレッシェンドからmfへ ことばしっかりと、はっきりと！

「いえのおきてに」:fでしっかりと「の」と「お」切っとうたう。

T1・T2

「りよじゅんのしろは ほろぶとも—」: 声の調子が甘すぎる！もっと言葉の一言一言を厳しい雰囲気で見せよ！「ほろぶとも」を攻める感覚で！強く出す。甘くならないで！（旅順の城壁が戦の攻防で滅びるとはどういう場面か？）

「きみはしらじな あきびとの いえのおきてに なかりけり—」: mfクレッシェンド fへ

T2:「なかりけり」で甘くなるな！詰めていく感じが欲しい！「なかりけり」の「な」は「uNa」ではっきりと。

(旅順 203 高地で日本兵 2 万人が死んだ歴史の現実、その真ただ中で闘っている弟に、殺し合いの戦で「何があっても命は落とすな」と歌っている与謝野晶子)

34~37小節 ソロ「Uh—」「Ah—」:ひらがなの「うー」「あー」でなく、ローマ字？の「Uh—」「Ah—」で発声して、響かせて！レガートで

◎40小節~「きみしにたもうことなかれ—」:mpで抑え気味に出て、母音抑えて、子音を出して！

46小節~「かたみに ひとの ちをながし ちをながし Uh— UhUhUh」:低音部 しっかり声出して！（3拍目4拍目）の音しっかり出すこと大事！

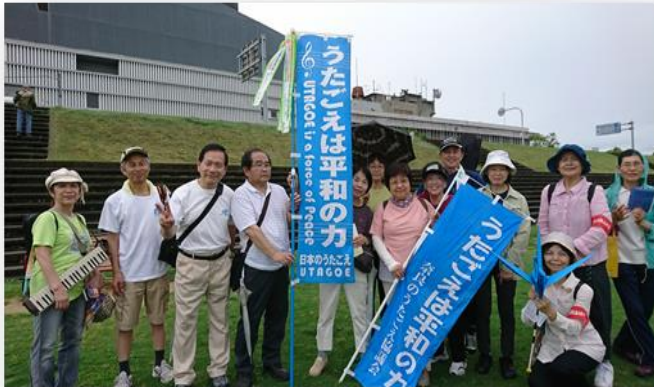
◎54小節「ああおとうと—たたかいに」~

出だし、歌い方は◎と同じでよい。3拍目・4拍目を押し気味に、甘くならない！低音部62小節「いたましく—」「いえをもり—おおみよも」:しっかり音揃えて歌うこと！「おおみよも」:一つずつ はっきり出して、大きくしていく！

◎67小節~「Ah—」「Uh—」:ピアノが壮大に鳴り響くところ。壮大な感じが展開される！声も壮大感を出していきましょう！日本語の「あー」「うー」の響きになっている。楽器の「Ah—」「Uh—」の音質に響くように声の出し

方の工夫をしよう！（胸と頭の上に手を当てて、前後左右の胸と頭を広げ、同時にのどの声帯を前後左右にひろがっている。声を出す。「Ah—」「Uh—」。胸から声が出ている！胸の中にi/e/o/uの粒がたくさんあって、それをたくさん出していく。「Uh—」「Ah—」とのぼして出す。「う」「あ」が一つの声の響きでなく、たくさん「Uh—」「Ah—」の声の塊の響きとして聞こえる出し方。

2017 平和大行進に行ってきました！



6月30日国民平和行進に参加しました。柏原市役所前で奈良のうたごえの仲間2名から「うたごえは平和の力」の幟を受け取りました。オープニングでは3匹のクマ・そよ風コーラス・ちばりよ沖縄ら10名で「ひとりからひとりへ」「青い空は」「平和の沖縄を返せ」「折鶴」を歌いました。集会では東京から広島まで歩く方1人、フィリピンの青年2人、大阪の通し行進者12人が紹介されました。また柏原市長から熱い連帯のメッセージも紹介されました。国連で「核兵器禁止条約」が締結される歴史的な年に日本政府が参加

しないのはヒバクシャへの裏切りであり、許せないとの怒りの挨拶が続きました。そのあと2時間半をかけて歩き八尾市役所まで歌い続けました。そして東大阪のうたごえの仲間にも幟をバトンタッチしました。その後しっかり汗をビールで流したことは言うまでもありません。小雨まじりの曇り空がすっかり晴れ渡りました。立川

昇11回コンサートコーナー

「平和でよかった」言えるまで

「作曲家として沖繩の惨劇を伝えたい」。あの風の音の表現に惚んだ。サトウキビの葉がこする「さわわ」にたどり着くまで約2年かかった。「さわわ」を68回繰り返す歌が完成した日の夜、寺島さんは歌手でもある妻葉子さんと一緒に歌を聴かせた。「夫は沖繩での体験を伝えようと、あれからずっとひとりで悩んでいたのか」と心を動かされたという。

歌の発表となる初演は67年5月、愛媛県新居浜市でのコンサートで歌手、田代美代子さんが歌った。田代美代子さんは次女で、ソプラノ歌手の夕紗子さん(47)や

父を思う「わたし」が描かれる。父を早くに亡くした自身の経験と重ねた田代さんは「継父によくしてらあったが、要は元来、歌うのが精いっぱいだった」と振り返る。歌詞からは「わたし」の生まれた日に戦いが終わったことが示唆される。田代さんは「終戦の1945年に『わたし』が生まれたとすれば40歳、たくましく生きて孫に囲まれて暮らす姿を思い浮かべて今も歌っている」と語った。

その後、森山良子さんや、ちあきなおみさんら70人以上の歌手らが歌った。今年、葉子さんは次女で、ソプラノ歌手の夕紗子さん(47)や

森山さんらと今後とも歌い続けようとした。夕紗子さんは「父は、この歌は反戦歌ではなく、鎮魂歌だ。こういう歌が歌われなくて世の中が来ればよいと話していた」と明かす。

53年前に寺島さんが歩いたサトウキビ畑は平和祈念公園に姿を変え、2012年には読谷村に歌碑が建てられた。折念公園内の施設を管理する沖繩協会の元役員で、寺島さん一家と交流してきた比嘉正昭さん(74)は「那覇市には『サトウキビ畑を逃げたい』と、筆を執って生き延びた一人一人の魂の記憶に訴えかける。歌い続けることが不戦の誓いになる」と話した。

今年も巡ってきた沖繩慰霊の日。夕紗子さんは「この歌の持つ優しさや、命のまなざしが永遠に歌い継がれてほしい」と願う。

【林紀子】

沖繩戦題材「さとうきび畑」の歌50年



「さとうきび畑」を作詞作曲した寺島啓彦さん。沖繩県、2006年7月、大塚勝久さん撮影

「さわわ、さわわ、風が通りぬけるだけ」。太平洋戦争末期の沖繩戦を題材にした歌「さとうきび畑」の発表から今年で50年。サトウキビ畑に吹く風の音の「さわわ」の響きに込めた鎮魂の思いが今も人の心を揺らさしている。多くの歌手や、作詞作曲し、13年前に73歳で亡くなった寺島啓彦さんの遺族も歌い継いできた。遺族らは二人一人が「平和でよかった」と言える日まで、歌の役割は終わらない」と気持ちを新たにしている。

(6面に関連記事)

心のざわわ終わらない

「さとうきび畑」の歌の半世紀

1964年	寺島啓彦さんが初めて沖繩訪問
67年	田代美代子さんが初演
69年	森山良子さんがレコーディング
72年	沖繩県が本主権帰属
75年	ちあきなおみさんによる歌を、NHK「みんなのうた」で放送
95年	テレビ番組の撮影で寺島さんが31年ぶり沖繩再訪
2001年	寺島さん一家が沖繩でコンサート開催、翌年も
02年	森山良子さんがこの歌で日本レコード大賞の最優秀歌唱賞受賞
04年	寺島さん死去、沖繩各地で追悼コンサート開催
12年	読谷村に歌碑完成
17年	初演から50年

月、初めて沖繩を訪れた。本主権帰属前、伴奏者として参加したり、サイタルの翌日、摩文仁の丘・糸満市に続くサトウキビ畑を案内され、地元の人々の言葉に衝撃を受けた。「この土の中には戦没者の魂が埋もれたままなんです。畑を吹き抜ける風の音が戦没者たちの嗚咽と怒号が聞こえるように思っています」。

作詞作曲者の遺族もこの歌を継ぐ。葉子さんは「この歌は反戦歌ではなく、鎮魂歌だ。こういう歌が歌われなくて世の中が来ればよいと話していた」と明かす。